

アイテレコムサービス株式会社

一般社員から急きょ社長に。思い共有しバトン託す

大手企業の子会社だったが、経営方針の転換を機に親会社から独立したアイテレコムサービス。その後、借入金の返済を巡り、社長が突然の失踪。当時、一般社員だった庄司美登里さんが、社員の雇用と顧客の信頼を守るため後継を託す。苦しい道のりの中、思いを共有する後継者に恵まれ、2015年にさらに社内承継でバトンを託した。現在、指揮を執る増西伸治社長は「長年お世話になった多くの人たちへの恩に報いていきたい」と語る。



返済苦で社長が失踪 一般社員が急きょ社長就任

アイテレコムサービスは、東証一部上場で情報通信機器の製造・販売の岩崎通信機(株)が出資した地域販社「岩通広島販売」として1987年に創業した。現在、会長を務める庄司美登里さんは、急転直下の出来事で急きょ一般社員から社長に就き、会社運営と借入金の返済に奔走することになる。

前身の岩通広島販売は、親会社から資本関係の解消を告げられたのを機に独立採算に移行。1992年に現社名に変更し、新体制で再スタートを切った。それから間もなく、金融機関から不動産投資の話が舞い込んだ。当時の社長は、運営資金を含め借入金2億円で購入を決め、94年に西区己斐本町に本社を移転。この投資が会社の潮目を大きく変えた。

投資は思惑通りに進まず、不動産価値は年々下落の一途。「身の丈を超えていた」という投資で借入金の返済に苦しんだ。心身共に限界を迎えた当時の社長は、「病院に行ってくる」と会社を出たきり、消息を絶ってしまう。移転からわずか1年後の

ことだった。

突然の社長の失踪に会社は混乱し、存廃の岐路に立たされた。

「私は、当社と資本・血縁などの関係はなく、たまたま新聞で求人広告を見つけて入社しただけ。もともとはパート主婦でした。社長が失踪した当時は48歳で長引く不況下では再就職の見通しが立たず、同様の不安をほかの社員も抱えていました。そこで年齢、社歴で最年長の私が継ごう、と覚悟を決めました。最後の決め手となったのは、長年私たちが信頼し取引を続けてくださるお客さまへの「恩」でした」

それまで社員の間に「しょうちゃん」の愛称で親しまれてきたが、翌日の朝礼で「私を社長と呼べない人は、明日から出社しなくていい」と啖呵を切った。前に進むしかなかった

誰もが継げるわけではなかった 後継者と時間を掛け思い共有

試行錯誤しながら経営する中で、2000年に介護保険制度が始まったことで介護分野の営業を強化。「介護福祉の設備

お役立ち業」として、介護事業に関する周辺の通信機器の整備やコスト削減の提案など、独自の販売体系を構築。現在も収益の5割以上を占める事業の柱になった。

庄司さんは事業を育てながら、自身の苦い経験を踏まえ、次の事業承継に向けて早い段階から準備を進めた。

「江戸時代の徳川家が長男の世襲制で長年栄えたように、年功序列に基づき後継者を選ぶと考えていました。しかしある日、候補者だった社員が辞表を提出。その時の顔のあまりの晴れやかさに、自分が力以上のものを求めすぎていたことに気づかされました。会社を背負うことは誰もができることではなく、相応の「器」が必要だったと痛感しました」



そこで重視したのが信頼に基づく人間性だった。白羽の矢を立てたのが当時営業部長の増西伸治さん。増西さんは、庄司さんが社長に就いた翌年に入社。堅実な働きぶりで長年、会社を支えた。

「できることとできないことを見極め、確実に仕事をこなしてくれていました。安心して仕事を任せられる人物で、私が大風呂敷敷を上げようとした時にいさめてくれたことも少なくありません。そうした人間性を他の社員も理解し認めていました」

2006年に増西さんを取締役に迎えた。それまで営業と技術など縦割りだった部署の垣根を取り払い、全員で営業する仕組みなど社内体制を整備。堅実経営を進めたが、それでも先代から引き継いだ負債は残ったまま。並行して進めた承継の準備の中、ある経営コンサルタントからは「もう自己破産をした方がいい。本当に引き継ぐのか?」と、増西さんの前で苦言を呈された

ことも。

「借りたお金は何年経っても返す。これは親の遺言だ、と決意し、返済や金融機関との交渉を長く続けてきた。だから、あの言葉だけは悔しくてどうしても忘れられない。それでも増西は「継ぐ」と言ってくれました。涙が出るほどうれしかったです」

約10年の移行期間を経て、15年8月に増西さんに社長職を引き継いだ。増西さんは、

「返済しようという思いは同じです。借入れをしていた銀行と長年の交渉を経て15年11月に返済のめどを立てることができました。会長と粘り強く経営に取り組んできた結果です。これからも確実に経営を推進していく。何より、長年お世話になった多くの人たちへの恩に報いていきたい」

かつての庄司さんの言葉と重なる。

「増西社長がつかうような時には、「大丈夫よ。私みたいなおばちゃんでもできたんじゃないか」と冗談半分で声を掛けます。どんな苦境でも、決してあきらめてはいけません」

引き継ぎは時間を掛けて 承継手続きはシンプルに

社内承継でネックになりがちな株式移行も、スムーズに進めることができた。増西社長は、

「庄司会長の長男や次男といった血縁によるしがらみがな

かったほか、土地や自社ビルは会社名義としているのが良かった。もし個人名義だったら、税金の関係などでいろいろ大変だったようです。会長から10年という長い時間を掛けて準備してもらったおかげで、円滑に経営を引き継ぐことができました」



会社概要		COMPANY PROFILE
●会社名	●アイテレコムサービス株式会社	
●代表取締役	●増西伸治	
●事業内容	●情報通信機器の販売、設計、施工、保守、修理	
●所在地	●広島市西区己斐本町3-11-6	
●創業	●1987年5月	
●資本金	●1500万円	
●従業員数	●7人	
●売上高	●1億円	